

「少しずつ逃げる家」。

私の家では、今までのように「住居者」が「住居」から「逃げる」行為を繰り返すのではなく、住居者自身が「逃げる」行為を繰り返すことで、住居が「逃げる」家になる。住居が「逃げる」家になることで、住居者自身が「逃げる」家になる。住居が「逃げる」家になることで、住居者自身が「逃げる」家になる。



現在の私の家=「逃げる」ための場所

私は今、6住戸の小さなアパートの201号室で一人暮らしをしている。いや、正確には、住居を視界に出さなければいけないので、今のアパートで暮らしていることになっていると言った方が正しいかもしれない。私の暮らしの「交わる」ことは、家の中でなく、大学やバイト先など家以外の場所で展開される。すなわち、住居のために契約した布団で寝る⇒「逃げる」だけの場所に通さないである。私の暮らしを家の中で展開するには、「逃げる」機能を持たせ、「交わる」機能を家の中に引き込む必要がある。



少しずつ逃げる家

家が「逃げる」機能を持ちながら、「交わる」機能が引き込むためには、まちの人と「交わる」場所をつくり、そこから少しずつ「逃げる」機能の家を計画するべきであると考えた。今回の計画は、10年後に奥さんとともに息子を養育、建築家として独立した私の自邸である。

1. 機能を設定し、「交わる」から「逃げる」の順になるように並べる

10年後に想定される暮らしから機能を抽出する。抽出した機能を人数と「交わる」広がりから少しずつ「逃げる」順に並べ替える。

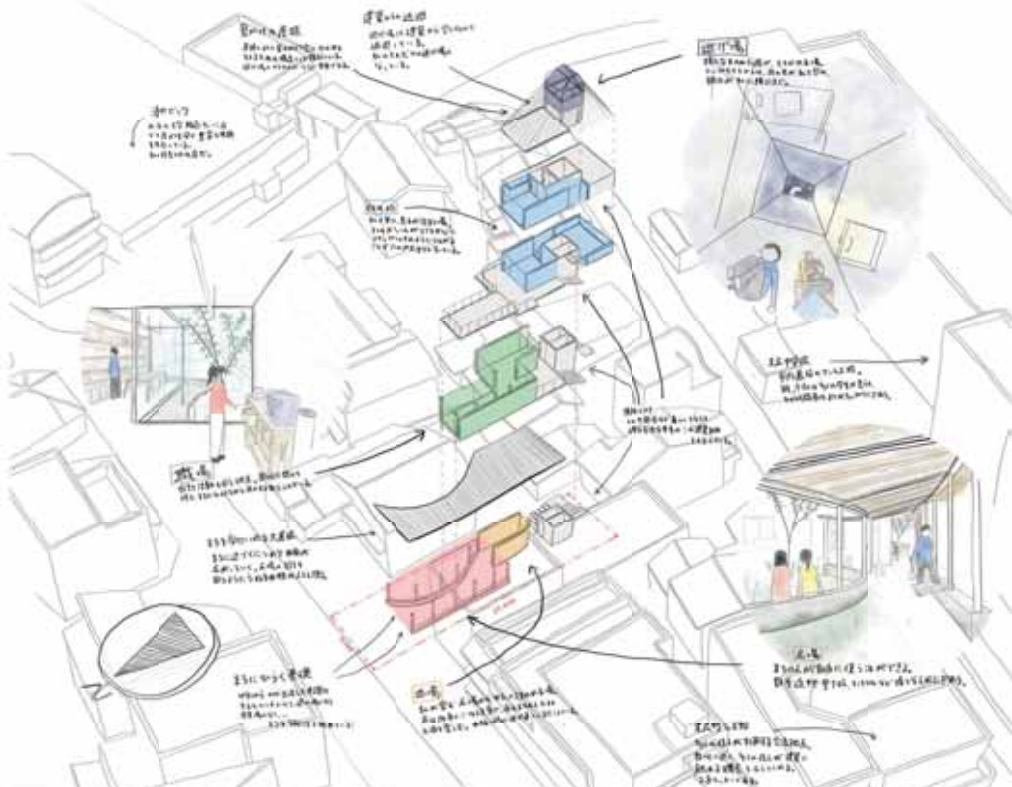
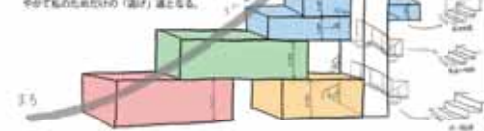


2. まちに対して奥へ、地面に対して上へと「逃げる」

思い込んだ機能の順に「逃げる」ことができるように以前に対して奥へ、地面に対して上へと機能配置していく。また、このときに機能の広さを「逃げ」でいくは遅れて少しずつ小さくしながら計画する。

3. 「逃げ」道をつくる

抽出した機能同士をつなぐ「逃げ」道をつくる。「逃げ」道は、少しずつ小さくする人を想定し、やがて私のためのだけの「逃げ」道となる。



静岡県静岡市葵区末広町 曾祖母の家跡地 (跡地になる予定)

10年後の私は、地元である静岡を拠点とし、設計活動をする事になった。しかし、土地を新たに買うほどの金銭的余裕はなく、静岡市葵区末広町の跡地には空き家を建て跡地となっている曾祖母の家跡地を探り、事務所兼家を構える事になった。この家のある末広町は、静岡市中心部に近い住宅地であるため、住みやすい上にひっそり事務所を構えるにはうってつけの場所だ。周辺には小学校、公民館がすぐそばにあり、小学生から老年層までの多層・多層層の人のびとが「交わる」ポテンシャルを持つまちである。ちなみに、家の隣で隣接するお風呂は、近くのビック（お湯の大型販売チェーン店）で買った安い湯であることはここだけの秘密である。